

設置の趣旨等を記載した書類（目次）

1. 設置の趣旨及び必要性	P3
1) 学校法人順天堂の沿革と建学の理念	P3
2) 設置の学術的・社会的背景	P4
3) 設置の必要性	P4
4) 養成する人材像	P5
5) 学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入の方針	P7
6) 育成する人材像と3ポリシーの相関及び整合性	P11
7) 専攻が研究対象とする中心的学問分野	P11
2. 修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か	P11
3. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称	P11
1) 研究科および専攻の名称	P11
2) 学位の名称	P12
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	P12
1) カリキュラムポリシー	P12
2) 教育課程の体系性	P14
3) カリキュラムマップ	p16
4) 1年間のスケジュール	p16
5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件	p17
1) 教育方法	p17
2) 履修指導及び研究指導の方法とプロセス	p17
3) 修了要件	p18
4) 履修モデル	p18
6. 基礎となる学部（又は修士課程）との関係	p19
7. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合	p19
8. 「大学院設置基準」第2条の2又は第14条による教育方法の実施	p19
1) 修業年限	p19
2) 履修指導及び研究指導の方法	p19
3) 授業の実施方法	P20
4) 教員の負担の程度	P20
5) 図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の厚生に対する配慮、必要な職員 の配置	P20
6) 入学者選抜の概要	P21
7) 必要とされる分野であること	P21

8)大学院を専ら担当する専任教員を配置するなどの教員組織の整備状況 等	P21
9. 入学者選抜の概要	P21
1) アドミッションポリシー	P21
2) 入学者選抜の概要	P22
3) 選抜体制	P25
10. 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色	P25
1) 教員配置の考え方	P25
2) 教員の研究分野	P26
3) 教員の年齢構成と定年との関係	P26
11. 研究の実施についての考え方、体制、取組	P27
1) 個人研究費、施設等	P27
2) 学内連携	P27
3) 研究活動をサポートする技術職員や URA の配置状況について	P28
12. 施設、設備等の整備計画	P28
1) 校地の整備計画	P28
2) 校舎等施設の整備計画	P28
3) 学生の研究室	P29
4) 図書等の資料及び学術メディアセンターの整備計画	P29
13. 管理運営	P31
1) 研究科委員会等の組織及び事務組織について	P31
2) 本研究科の管理運営方法	P31
14. 自己点検・評価	P33
1) 実施方法、実施体制、結果の活用	P33
2) 評価項目	P33
3) 結果の公表	P34
15. 認証評価	P34
16. 情報の公開	P34
1) 公表の方針・考え方	P34
2) 公表の方法	P34
17. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P50

設置の趣旨等を記載した書類（本文）

1. 設置の趣旨及び必要性

1) 学校法人順天堂の沿革と建学の理念

学校法人順天堂は、天保9年、学祖・佐藤泰然が江戸・薬研堀に開設した西洋医学塾に端を発し、その後、時代の変遷を先人達の熱意と使命感をもって乗り越え、日本の医学・医療分野の発展に指導的な立場で貢献してきた。現在本学は、医学・医療系学部として、医学部、医療看護学部、保健看護学部、保健医療学部、医療科学部と2024（令和6）年4月開設予定の薬学部の6学部に加えてスポーツ健康科学部、国際教養学部と本年度開設の健康データサイエンス学部の9学部を擁し、大学院は医学研究科（博士課程、修士課程）、スポーツ健康科学研究科（博士前期課程(M)、博士後期課程(D)）、医療看護学研究科（博士前期課程(M)、博士後期課程(D)）、保健医療学研究科（修士課程）と本年度開設の国際教養研究科の5研究科で、高度な専門教育と研究を行っている。また、大学院附属研究センター（研究所）として、アトピー疾患研究センター、老人性疾患・病態治療研究センター、環境医学研究所、スポーツ健康医科学研究所及びスポーツロジックセンターをはじめ、医学・医療・スポーツ分野の多岐にわたる研究機関を設置している。

医学部附属病院群は、本院としての機能を持つ順天堂医院（東京都）のほか、静岡病院（静岡県）、浦安病院（千葉県）、順天堂越谷病院（埼玉県）、順天堂東京江東高齢者医療センター（東京都）及び練馬病院（東京都）を開設し、6病院総病床数3,589床を擁している。6附属病院は、高度な先進医療から、高齢者医療や精神医療等をカバーし、各附属病院の立地する地域の特性に応じた地域医療の充実を図り、国民の医療ニーズに幅広く対応している。

本学の学是は「仁」である。「人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心。これ即ち仁」。また理念を「不断前進」としている。豊かな人間性と高い倫理観を持ち、最善の医療などのサービスを提供するために、現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力を続けることのできる人材を育成することを目指している。この学是と理念は、自由な競争環境にこそ活気ある教育研究活動が展開されるという建学の精神を伝承し、全くといってよい程に学閥がなく、優秀であれば国籍、性別、出身校を問わず任用するという学風「三無主義」を確立している。順天堂に集う者すべてが、この学風を理解し享受し、自己研鑽、競争原理及び相互信頼の基に順天堂人としての連帯感が涵養され、教育研究臨床活動を着実に実践している。

本学は、5大学院研究科9学部6附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として、医学・看護・保健・スポーツ・グローバル社会・データ科学等を担う人材を育成し、専門性を活かした教育研究臨床活動を展開して人々の生命や健康を支え、社会の発

展に貢献することを目指している。

2) 設置の学術的・社会的背景

経済産業省「IT人材需給に関する調査」では、2030年には先端IT人材が最大54.5万人不足すると試算している【資料1】。独立行政法人情報処理推進機構の「DX白書2023」においても、企業等におけるDX推進人材の量的確保状況及び見込について調査結果が発表されており、DXを推進する人材が充足していると回答した企業等の割合が日本は10.9%、さらに大幅に不足しているとの回答は、前年度の調査結果の30.6%から2022年度調査では49.6%と大きく増加しており、DX推進人材の「量」の不足が顕著に進んでいることが窺える。最後に同白書では、今後の人口減少とDX市場の成長に伴い人材不足はさらに深刻化すると結んでいる【資料2】。

以上の背景の中、本学は時代と社会の要請に応えるべく、IT及びデジタル人材の育成を積極的に進めており、2023（令和5）年4月に健康・医療・スポーツのデータを科学する「健康データサイエンティスト」を養成する学部教育を推進するため、健康データサイエンス学部を開設した。同学部は2025（令和7）年度までの教育研究の実績を基に2026（令和8）年に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の認定を受ける計画であり、学内全9学部の数理・データサイエンス・AI教育プログラムを牽引する役割を担うことを目指している。また、同学部では既に高大連携が始まり、複数の高校において研究課題（「総合的な探究の時間」の情報教育やデータサイエンス教育の箇所）の評価を本学部専任教員が担っている。このように、本学のAI及びデータサイエンス教育に対する高校からの注目が学部開設後高まっており、実際、新しい情報科「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」の教育に関する助言から「総合的な探究の時間」の協働まで、高校側からの連携要請は絶たない。

また、文部科学省の成長分野支援施策である「大学・高専機能強化支援事業」の取組において、本研究科設置の構想が同事業の「平成5年度高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援（支援2・特例枠）」に選定された【資料3】。これにより、本学の強みである「健康」を軸とした特色あるAI・データサイエンスの教育研究がさらに加速することになり、高大連携から学部・大学院教育、そして産学連携までの広い範囲を一貫した教育研究の推進が可能となる。

3) 設置の必要性

本学の強みは長年蓄積した大量の医学・医療・スポーツ領域のデータであり、それらのデータを研究データとして最大限に駆使し教育研究を展開できることである。もちろん医療データの取り扱いには多くの留意点がある。まず、個人情報保護の観点からデータの匿名化が必須となり、基本的には、施設内の閉じたネット環境で研究者がデータ

を取り扱うことになる。生命科学・医学系研究の倫理指針では、『情報』に関してはオプトアウトでの利用が認められており、倫理委員会で承認された研究計画に基づけば、データサイエンス分野では『情報』が重要なので、蓄積された多くのデータを活用できる。教育用のデータとしては、利用可能な大学内のデータのみならず、医療系の大学として多くの研究を行う上で得られる情報をもとに、種々のオープンソースデータを活用することになる。これらのデータを収集、そしてデータを分析・科学することを通し、AI・データサイエンスの知識・技術に長けた高度情報専門職者を育成するとともに、研究成果をもって新たな知見を社会に発信・展開することができる教育者・研究者を育成できる。既に産業界等からの要望等に対し、学内ではいくつかの取組が具現化しており、医療への実践的な応用や実装、病態解明とその知見を用いた介入に関する人工知能やソフトウェアなどの ICT を駆使した研究を行う本学既設の医学研究科医科学専攻（修士課程）データサイエンス学位コースでは、医学を軸に、多くの AI 企業やヘルスケア産業等と AI 医療の拡充及び発展のための教育研究連携が進んでいる。

1948年に発効された WHO 憲章では、前文において「健康」を肉体的・精神的・社会的に、すべてが満たされた状態にあると定義している。本研究科が考える「健康」も同様で、医学・医療に限ることなく、人々の暮らしや社会活動全般が「健康」そのものであると考える。その中で本学は、医学・医療・スポーツ領域に係る教育・研究人材を擁し、豊富かつ多様な臨床データ等の医療情報に係るデータを保有している強みがある。これら強みを「健康」として包括し、これを活かし、健康に関するデータを科学する健康データサイエンスの教育研究を推進し、その発展に貢献する持続可能な教育研究を展開することが使命であると考えます。

なお、本研究科の教育研究で得た知的リソースは、本研究科内に限定することなく、速やかに社会課題に対応する取組みへと展開する考えである。その具体的なシステムとして、いち早く社会のニーズに応えたく、主に社会人を対象とした公開講座「サイバーセキュリティ教育プログラム」（1 開催 8 コマ×年間 2 回）を令和 6 年度から研究科開設に先駆け実施するなど、リスクリングの推進についても重視し、積極的な取り組みにより、地域社会や企業における IT 人材の育成にも貢献し、地域社会や企業等の信頼を積み重ねていくこととする。

4) 養成する人材像

デジタル分野の専門人材不足は、今後のデジタルサービスの需要次第で、これからも慢性的且つ長期的に続いていくものと考えられる。加えて、「人生 100 年時代」の到来と言われる日本において、人々の健康に対する関心度はますます高まってきている。そのため、健康をデータ化・データ分析し、エビデンスをもって科学的に取り組める専門性の高い人材は、医療やヘルスケア分野に限らず広い分野で求められ

ることになる。これらの社会的要請に応えるため、本研究科では、学是である「仁」の精神に基づき、データサイエンスの深くかつ広範な専門的知識と専門的技術を備え、国際社会や地域社会における健康・医療・サイバーセキュリティ分野を含む諸課題の解決のため、データサイエンスを実践的且つ応用的に利活用することができる高度情報専門職者と学術的進展に寄与する教育者・研究者を育成する。

（博士前期課程(M)）

博士前期課程(M)の教育課程では、1階部分として、データサイエンスの基本となる統計学を重視するとともに、各分野領域においてIT人材及びデジタル人材として活躍するための知識と技術を身につけるため、機械学習や分散データ処理技術など、コンピュータサイエンスを教育基盤とする。2階部分として、応用統計、高次コンピュータサイエンス、サイバーセキュリティ、バイオメカニクスなどの高次な教育研究を行い、データサイエンスの専門人材を育成する。

具体的には、AIで生じるエラーを過誤できない健康分野において、AIの正誤を判断できるなど、解剖学や生理学等の健康や医療に関する基礎を身につけ、AIやデータ分析に長けた人材「健康データサイエンティスト」の育成を目指す。健康分野は今後の社会での更なる発展が望まれる分野で、これらの専門家はデータサイエンスの技術を用いて健康情報を解析し、医療や公衆衛生の改善に活用するだけでなく、Software as a Medical Device (SaMD)と呼ばれる健康AIアプリの開発など新たな産業分野として起業もできる能力を持つことが求められる。また、近年AIを用いたサイバー攻撃のさらなる巧妙化が進んでおり、サイバーセキュリティに対する脅威への認識が高まっており、欧米ではサイバーセキュリティに関する政府発令や立法化の動きが加速している【資料4】。サイバーセキュリティに関する技術は汎用的であり、各種の産業分野で攻撃・対策技術が共通化されつつある。これらの技術の利用は情報通信業界や金融業界などが先行しているが、健康や医療領域においても例外ではない。電子カルテシステムへのサイバー攻撃や、医療機器へのサイバー攻撃などが発生しており、IoT技術を使った遠隔医療用機器へのサイバー攻撃などが発生すれば生命維持にとって重大なリスクとなり得る。今後、デジタル化された健康及び医療分野が発展するためには、サイバー攻撃によるセキュリティリスクを正しく理解し、対策を行うことができる専門知識とスキルが非常に重要である。特に、ネットワークやIoTなどに対する技術知識は必須のものとなると考えられる。しかしながら、サイバーセキュリティで修得する技術は大変に幅広く、産業界等で即通用する実践力レベルまで、学部教育(4年間)だけで育成するのが難しく、本研究科でネットワークやIoTなどに対する技術知識に関する教育研究を積み、様々な分野に対して汎用的技術を幅広く利活用しサイバー攻撃によるセキュリティリスクと対策を正しく理解する専門的な知識を持つ人材、これらを育成するこ

ととする。

(博士後期課程(D))

博士後期課程(D)では、国際社会や地域社会へ貢献する高い意識に基づき、データサイエンスをより深く探究し、創造的に活用することで新たな社会価値を創出することができる国際社会を牽引し、学術的進展に寄与することができる教育者・研究者を育成する。

データアナリティクス領域では、臨床研究や公衆衛生学における研究計画から実際のデータの取得、解析によって得られた結果の解釈まで、研究者としての確固たる研究方法を確立する。コンピュータサイエンス領域では、データサイエンスの高度化に必要なコンピュータサイエンスの知識・技術について修得し、データサイエンスの高度化に必要な並列処理やGPUとそのプログラミング技術、また、AIやビッグデータの高度化、さらに量子コンピュータ等、次世代の技術についても研究し、新たなインターネットの応用技術を創出する。また、日々新たな攻撃手法が開発されるサイバーセキュリティの分野において、対策手法も日進月歩で変化を続けており、様々な視点をもって新たなサイバーセキュリティにおける課題を発見し、その対策を創出することができる能力を修得する。特に、従来機微情報として扱うことが容易ではなかった健康や医療の分野を代表とする、人命にかかわるようなサイバー攻撃に対しての対策立案までも対象とした研究を行う教育者及び研究者を養成する。ヘルスデータサイエンス領域では、医療統計学や身体計測方法等を修得し、得られたデータを分析する手法を身につけ、身体動作のパフォーマンスの向上や高齢者の転倒防止歩行動作の開発、臨床応用医用AIの開発など、自ら新しい応用分野を切り開いていく研究力を修得する。

これらの育成する人材像は、成長分野であるDXをけん引する高度人材(IT人材)の育成・輩出を理念・目的とする「大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援(支援2・特例枠))」において選定された本研究科の構想にも一致する【資料3】

5) 学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入の方針

(1) 学位授与の方針(ディプロマポリシー)

本研究科では、学是である「仁」の精神に基づき、データサイエンスの深くかつ広範な専門的知識と専門的技術を備え、国際社会や地域社会における健康・医療・サイバーセキュリティ分野を含む諸課題の解決のためデータサイエンスを実践的且つ応用的に利活用することができる高度情報専門職者と学術的進展に寄与する教育者・研究者を育成する。

(博士前期課程(M))

博士前期課程(M)では、高い倫理観を有し、データサイエンスの高度な理論と技術に基づいて、国際社会や地域社会における健康・医療・サイバーセキュリティを含む諸課題を主体的に発見し、国や地域、産学の垣根を越えて他者と協議し、その解決に向けて貢献する高度情報専門職者を育成する。

- DP1 データサイエンスの基盤となる統計学及びコンピュータサイエンスの深くかつ広範な専門知識と実践力を備えた人材を育成する。
- DP2 医学や医療に関する知識を有し、AI技術やデータ分析に専門的で高度な実践力を備えたデータサイエンティストを育成する。
- DP3 サイバーセキュリティに関する専門的知識を持ち汎用的に利活用することができる人材を育成する。
- DP4 先端的データサイエンスの教育研究を実現する新たな教育理論の開発や実践展開ができる教育者・研究者を志向する人材を育成する。

(博士後期課程(D))

博士後期課程(D)では、国際社会や地域社会へ貢献する高い意識に基づき、データサイエンスをより深く探究し、創造的に活用することで新たな社会価値を創出するとともに、国際社会を牽引し学術的進展に寄与することができる教育者・研究者を育成する。

- DP1 データサイエンスの基盤となる統計学及びコンピュータサイエンスの深くかつ広範な専門知識と実践力に加え、国際レベルの発信力を備えた人材を育成する。
- DP2 医学・医療に関する知識を有し、AI技術やデータ分析に専門的で高度な研究力と実践力を持ち、21世紀の高度情報化社会の進展に寄与できるデータサイエンティストを育成する。
- DP3 サイバーセキュリティの深くかつ広範な専門知識に基づいた実践応用力を備えることに加え、先進的な研究や技術開発により、新たな価値を生み出すことができる人材を育成する。
- DP4 新たな知見の創造を目的に、自立して先端的データサイエンス教育研究をより深く探究し、国際社会や地域社会へ貢献するとともに学術的進展に寄与する人材を育成する。

(2) カリキュラムポリシー

本研究科では、ディプロマポリシーに示す資質・能力を身に付けるために、教育課程を「基盤科目」「専門科目」「研究指導科目」に区分し、それぞれの教育

が有機的に連動し、基礎から応用、応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるように、以下の方針に基づき教育課程を編成する。

(博士前期課程(M))

- CP1 医学・医療・スポーツ等に関するデータを科学する健康データサイエンスの学修及び研究に必要な基礎力を獲得するとともに、それらが持つ社会的意義と役割を理解し、高い倫理観に基づいた総合的・創造的な実践力と研究力を段階的に高めていけるように「基盤科目」及び「専門科目専門基礎科目」の概論科目を配置する。
- CP2 データサイエンティストが具備すべき高度な専門的知識と技術を身につけられるように、「データアナリティクス・コンピュータサイエンス研究領域科目」に統計学、人口知能、コンピュータサイエンスやサイバーセキュリティに関する特論科目を配置する。
- CP3 健康や医療に関わるデータサイエンティストが具備すべき高度な専門的知識と技術を身につけられるように、「ヘルスデータサイエンス研究領域科目」にバイオメカニクス、画像解析や医療DX・医療AIに関する特論科目を配置する。
- CP4 健康や医療に関する知識を身につけ、健康や医療領域におけるデータサイエンスの必要性や発展について着実に理解・修得できるように、健康や医療領域に関する多様なデータを収集・加工・分析・解析する知識と技術を修得する科目を「基盤科目」から「専門科目」へ段階的に配置する。
- CP5 実践力の向上を目指し、学生がグループワークや他機関の研究者等との議論・協働等の中でリーダーシップやチームワークを発揮し、主体的に問題発見から問題解決に取り組む能力を身につけることができるように、1年次及び2年次に「研究指導科目」を教育課程に編成する。また質保証の観点を含め適切な学位審査（論文審査）を実施するため、研究方法を確立する。

(博士後期課程(D))

- CP1 医学・医療・スポーツ等に関するデータを科学する健康データサイエンスの学修及び研究の開始に必要な知識と技術を獲得し、高い倫理観に基づいた総合的・創造的な実践力と研究力を段階的に高めていくため、教育課程に「基盤科目」を配置する。
- CP2 データサイエンティストが具備すべき高度な専門的知識と技術を身につけられるよう「データアナリティクス」「コンピュータサイエンス（サ

イバーセキュリティを含む)」「ヘルスデータサイエンス」に関する特講科目を配置する。

CP3 実践力の向上を目指し、研究科生が国内外の他研究者や連携機関等とのプロジェクト等においてリーダーシップやチームワークを発揮し、主体的に問題発見から問題解決に取り組む能力を身につけることができるように、各年次に「研究指導科目」を教育課程に編成する。また質保証の観点を含め適切な学位審査（論文審査）を実施するため、研究方法を確立する。

CP4 研究科生が専門力及び研究力に自信を持ち、教育者・研究者として具体的な社会貢献への展望を描き、生涯にわたって研究し続ける姿勢を持てるよう各学年に「研究指導科目」を配置する。研究指導科目「健康データサイエンス特別研究1～3」では、博士論文審査までに、学術論文を査読付きのジャーナルまたは国際会議に投稿し、受理（アクセプト）されること目指し、国内外問わず研究者として活躍するための知識と技術を確立する。

(3) アドミッションポリシー

本研究科では、高い倫理観と創造力を有し、高度な AI 技術やデータ分析の専門的技術を備えた高度情報専門職者及び教育者・研究者として社会の発展に寄与するために、すべての入学者選抜制度に共通して、以下の準備ができている者を入学者として求めている。

(博士前期課程(M))

AP1 出身学部・専攻は問わないが、医学・医療、工学や理学などの自然科学に関する基礎知識と基礎的な研究能力を有する人

AP2 健康データサイエンスの探究を通して、人々の健康に貢献することを求めている人

AP3 国際的な視野で知識を獲得し、意欲を持って研究課題に取り組むことのできる人

AP4 高い理想を実現するために新たな研究に挑戦する意欲を持っている人

(博士後期課程(D))

AP1 出身研究科・専攻は問わないが、データサイエンスに関する専門的知識と研究を遂行できる学力を有している人

AP2 自ら主体的に問題を発見し、課題を解決する能力を持っている人

AP3 研究を進めるにあたり必要とされる外国語の能力を持っている人

6) 育成する人材像と3ポリシーの相関及び整合性

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

育成する人材像は、デジタル分野における専門的技術を備えた高度情報専門人材であり、上述の学位授与方針(ディプロマポリシー)として定義している。ディプロマポリシーを軸とした、教育課程編成・実施方針(カリキュラムポリシー)、入学者受入の方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシーの関係については、【資料5】のとおりである。なお、各科目がディプロマポリシーを踏まえたカリキュラムポリシーのどれを達成することに関係しているのかについては、カリキュラムマップにて提示している【資料6】。

7) 専攻が研究対象とする中心的学問分野

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

本研究科は、人の健康の基本を理解し、データ科学する力量を身につけ、情報に関する高度な専門知識と技術を備えたデータサイエンティストとして、日本及び世界の持続的発展を担う人材の育成を目的としている。、統計学、コンピュータとプログラミング、サイバーセキュリティ、ヘルスデータサイエンスが本研究科の教育内容の基本となる。したがって、本研究科の学位は「保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)」と「工学関係」となる。

2. 修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か。

本研究科の博士後期課程(D)は、博士前期課程(M)における教育・研究活動を継続させ、さらに修士論文を発展させたより高い水準の専門教育・研究拠点とするとともに、産業界等に既に働く社会人に対して、より高いレベルの技術開発力及び研究力を有する人材を養成する拠点とする。そのため、博士前期課程(M)と同時に博士後期課程(D)を設置することで、一貫性をもった教育研究のもと人材育成を実現するとともに、多様な社会ニーズに応えた教育研究を展開していくこととする。

3. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

1) 研究科及び専攻の名称

(博士前期課程(M))

研究科の名称	大学院健康データサイエンス研究科 (博士前期課程(M)) [Graduate School of Health Data Science (Master' s Degree)]
--------	--

専攻の名称	健康データサイエンス専攻 [Major in Health Data Science]
-------	--

(博士後期課程(D))

研究科の名称	大学院健康データサイエンス研究科 (博士後期課程(D)) [Graduate School of Health Data Science (Doctoral Program)]
専攻の名称	健康データサイエンス専攻 [Major in Health Data Science]

2) 学位の名称

(博士前期課程(M))

学位の名称	修士 (健康データサイエンス学) [Master of Health Data Science]
-------	---

(博士後期課程(D))

学位の名称	博士 (健康データサイエンス学) [Doctor of Health Data Science]
-------	---

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

1) カリキュラムポリシー

健康データサイエンス研究科では、ディプロマポリシーに示す資質・能力を身に付けるために、教育課程を「基盤科目」「専門科目」「研究指導科目」に区分し、それぞれの教育が有機的に連動し、基礎から応用、応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成する。

(博士前期課程(M))

CP1 医学・医療・スポーツ等に関するデータを科学する健康データサイエンスの学修及び研究に必要な基礎力を獲得するとともに、それらが持つ社会的意義と役割を理解し、高い倫理観に基づいた総合的・創造的な実践力と研究力を段階的に高めていけるように「基盤科目」及び「専門科目 専門基礎科目」の概論科目を配置する。

- CP2** データサイエンティストが具備すべき高度な専門的知識と技術を身につけられるよう「データアナリティクス・コンピュータサイエンス研究領域科目」に統計学、人口知能、コンピュータサイエンスやサイバーセキュリティに関する特論科目を配置する。
- CP3** 健康や医療に関わるデータサイエンティストが具備すべき高度な専門的知識と技術を身につけられるように、「ヘルスデータサイエンス研究領域科目」にバイオメカニクス、画像解析や医療DX・医療AIに関する特論科目を配置する。
- CP4** 健康や医療に関する知識を身につけ、健康や医療領域におけるデータサイエンスの必要性や発展について着実に理解・修得できるように、健康や医療領域に関する多様なデータを収集・加工・分析・解析する知識と技術を修得する科目を「基盤科目」から「専門科目」へ段階的に配置する。
- CP5** 実践力の向上を目指し、学生がグループワークや他機関の研究者等との議論・協働等の中でリーダーシップやチームワークを発揮し、主体的に問題発見から問題解決に取り組む能力を身につけることができるように、1年次及び2年次に「研究指導科目」を教育課程に編成する。また質保証の観点を含め適切な学位審査（論文審査）を実施するため、研究方法を確立する。

(博士後期課程(D))

- CP1** 医学・医療・スポーツ等に関するデータを科学する健康データサイエンスの学修及び研究の開始に必要な知識と技術を獲得し、高い倫理観に基づいた総合的・創造的な実践力と研究力を段階的に高めていくため、教育課程に「基盤科目」を配置する。
- CP2** データサイエンティストが具備すべき高度な専門的知識と技術を身につけられるよう「データアナリティクス」「コンピュータサイエンス（サイバーセキュリティを含む）」「ヘルスデータサイエンス」に関する特講科目を配置する。
- CP3** 実践力の向上を目指し、研究科生が国内外の他研究者や連携機関等とのプロジェクト等においてリーダーシップやチームワークを発揮し、主体的に問題発見から問題解決に取り組む能力を身につけることができるように、各年次に「研究指導科目」を教育課程に編成する。また質保証の観点を含め適切な学位審査（論文審査）を実施するため、研究方法を確立する。
- CP4** 研究科生が専門力及び研究力に自信を持ち、教育者・研究者として具体的な社会貢献への展望を描き、生涯にわたって研究し続ける姿勢を持てるよう各学年

に「研究指導科目」を配置する。研究指導科目「健康データサイエンス特別研究1～3」では、博士論文審査までに、学術論文を査読付きのジャーナルまたは国際会議に投稿し、受理（アクセプト）されること目指し、国内外問わず研究者として活躍するための知識と技術を確立する。

2) 教育課程の体系的性

教育課程の編成は、学位授与方針に基づくカリキュラムポリシーに基づき、体系的に編成している。「基盤科目」から、「専門科目」「研究指導科目」へと、学年進行とともに基礎的素養の涵養から専門性を高めていくよう段階的に教育課程及び時間割を編成している。【資料7】

本研究科の主な入学者は、博士前期課程(M)については外国人留学生を含む医療系及び理工系の学部卒業者及び修士課程修了生が中心となるが、社会人も含め多様な分野・方面からの出身者で構成されると考えている。博士後期課程(D)も同様である。

(博士前期課程(M))

本研究科生の学修及び研究スキルの基盤形成を目的に、導入科目として「基盤科目」を置く。研究科生が学問的良心に基づき研究活動を行うためには、研究倫理の理念や原則、研究の基礎的知識や基本的な方法等を理解した上で、研究を実施することが重要である。また、研究の推進には個人情報適切な取り扱いが求められる現代において、情報の取扱いの安全性確保が求められる。そのため、「基盤科目」では、全ての研究科生の学修及び研究開始の出発点として、「研究倫理（技術倫理を含む）」と「セキュリティガバナンス概論」「学術英語方法論」の3科目を基盤科目の必修科目として学び、全ての研究科生が主体的に学修及び研究を進めて行く中で必要な基礎知識を身につける。また、本研究科は入学者の出身学部・専攻を限定しないため、学部までの学修領域は多様な履歴であることが想定される。そのため、1年前期の「基盤科目」に、「統計学基礎」「人工知能概論」「バイオメカニクス概論」「データサイエンティストのための健康・医学概論」を置き、入学後、指導教員が、研究科生の医学・医療、数理統計、コンピュータ科学に関する学修履歴と基礎知識レベルを確認したうえで履修指導を行い、研究科生は基礎知識が不十分な領域を4科目の中から2科目を選択履修させることで本研究科専門教育の基盤となる基礎知識の獲得を図る。例えば、医療系分野以外の理・工学部出身者の場合で、ヘルスデータサイエンス領域を研究課題とする研究科生には、「データサイエンティストのための健康・医学概論」を選択履修するように指導する。医療系分野出身者で、統計の基礎知識が不十分な場合は、「統計学基礎」と「人工知能概論」を履修するように指導する。統計学の基礎知識がありコンピュータサイエンス領

域を志望する研究科生には「人工知能概論」と「バイオメカニクス概論」を選択履修するように指導する。

「専門科目」は、選択した専門を学修するうえで基盤となる「専門基礎科目」と、目的・目標に応じて選択する「データアナリティクス・コンピュータサイエンス研究領域科目」と「ヘルスデータサイエンス研究領域科目」に区分し構成している。

「専門基礎科目」には、統計学及びコンピュータサイエンス、健康及び医療の本研究科の教育軸となる2領域におけるコアとなる科目を専門基礎科目として配置している。指導教員の指導のもと、統計学及びコンピュータサイエンス、サイバーセキュリティを専門とする者は「統計学特論」と「生物統計学特論」から、あるいは「人工知能特論」と「ネットワークセキュリティ特論」から科目を選択する。健康及び医療の領域におけるデータサイエンスを専門とする者は、「医療情報特論」と「医療DX・AI特論」から科目を選択する。「専門基礎科目」は、2科目4単位以上の選択必修の区分とする。

「専門基礎科目」科目履修後は、研究科生の研究計画に則し本格的に専門科目を履修することになる。統計学及びコンピュータサイエンス、サイバーセキュリティを専門とする者は、指導教員の指導のもと「データアナリティクス・コンピュータサイエンス研究領域科目」から科目を選択する。サイバーセキュリティを学修するにあたっては、あらゆる事案対応に必要な大局的な視点の獲得が必要なため、コンピュータサイエンス各科目の学修後に学ぶことが望ましく、2年次を中心に科目を配置している。健康及び医療の領域におけるデータサイエンスを専門とする者は、指導教員の指導のもと「ヘルスデータサイエンス研究領域科目」から科目を選択する。研究課題及び修士論文と直結する、これら2つの領域の専門科目群を主要授業科目として位置付けている。

もう一つの主要授業科目は、1年次から2年次にわたり教育課程の核として展開する「研究指導科目」である。1年次には通年科目「健康データサイエンス特別研究1」、2年次には通年科目「健康データサイエンス特別研究2」を配置しており、指導教員が当該科目を通じて研究指導及び修士論文の作成指導を行う。

研究科生は、学修と研究と同時に、基礎学部である健康データサイエンス学部のティーチングアシスタント（TA）の活動を通じて、アクティブ・ラーニングを学び、また講義・演習の実施方法や教材等の作成に関する教育などを体験する。これにより教育者としての基礎的素養の涵養に配慮する。

（博士後期課程(D)）

博士後期課程(D)においては、各選択領域の専門科目、研究室における研究指導、論文演習が学修活動の中心となる。

本研究科生の学修及び研究活動の基盤形成を目的に、導入科目として「基盤科目」を置く。博士前期課程(M)同様に、本研究科は入学者の出身となる博士前期課程(M)の分

野・専攻を限定しないため、入学者の過去の学修領域は多様であることが想定される。そのため、1年次に「基盤科目」として、「統計学特講」「人工知能特講」「健康医療情報学特講」を置き、指導教員の指導のもと1科目（2単位）を選択し履修する。博士前期課程(M)と同様に、入学後、指導教員が、研究科生の医学・医療、統計学、コンピュータ科学に関する学修履歴と専門知識レベルを確認したうえで履修指導を行い、研究科生は知識が不十分な領域科目を選択履修させることで「専門科目」に展開するための基盤形成を図る。

「専門科目」においては、研究計画に即して履修する。統計学を専門とする者は、1年次から2年次までの2年間、講義科目「データアナリティクス特講1・2」と演習科目「データアナリティクス特別演習1・2」の計6単位を履修する。コンピュータサイエンス及びサイバーセキュリティを専門とする者は、1年次から2年次までの2年間で、講義科目「コンピュータサイエンス特講1・2」と演習科目「コンピュータサイエンス特別演習1・2」の計6単位を履修する。健康及び医療領域のデータサイエンスを専門とする者は、1年次から2年次までの2年間で、講義科目「ヘルスデータサイエンス特講1・2」と演習科目「ヘルスデータサイエンス特別演習1・2」の計6単位を履修する。

1年次より研究活動を展開するため、「特別研究」を通年科目として各学年に配置しており、入学から修了までの3年間、指導教員が当該科目を通じて研究指導、論文指導を行う。

研究科生は、学部教育及び博士前期課程(M)のティーチングアシスタント(TA)の活動を通じて、講義・演習の実施方法や教材等の作成に関する教育などを体験する。これにより教育者としての基礎的素養の涵養に配慮する。

3) カリキュラムマップ

カリキュラムマップでは、学位授与の方針(ディプロマポリシー)を踏まえた教育課程編成・実施方針(カリキュラムポリシー)と各授業科目のどれを達成することに関係しているのかについて提示する。すなわち、カリキュラムポリシーと各授業科目の整合は、カリキュラムマップ等で示している。【資料6】 【資料7】

4) 1年間のスケジュール

(博士前期課程(M))

博士前期課程(M)は、「研究指導科目」を軸に、カリキュラムの系統性に沿って各学年前期から後期へと段階的に学修する。【資料7-1】

(博士後期課程(D))

博士後期課程(D)は、「研究指導科目」を軸に、カリキュラムの系統性に沿って各学年前期から後期へと段階的に学修する。【資料7-2】

5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

1) 教育方法

(博士前期課程(M))

博士前期課程(M)では、理論と実務の架け橋となる教育を充実させるため、授業科目の性格に応じて、講義、研究指導、論文演習を軸に教育する。講義形式を重視する授業は、基礎科目などに集中してみられるが、これは本研究科の教育基盤となる医学や統計学、コンピュータサイエンスの基本的な知識を学修させるため、また論文作成に不可欠な法令・基準等に関する解釈等を学修させるためである。選択科目については、指導教員の指導のうえ、研究テーマ及び研究計画に沿って、「データアナリティクス・コンピュータサイエンス研究領域科目」と「ヘルスデータサイエンス研究領域科目」の2つの専門領域から履修科目を選択する。

(博士後期課程(D))

博士後期課程(D)では、理論と実務の架け橋となる教育を充実させるため、授業科目の性格に応じて、講義と演習、研究指導、論文演習を軸に教育する。履修する科目は、指導教員の指導のうえ、研究テーマ及び研究計画に沿って、「データアナリティクス科目群」「コンピュータサイエンス(サイバーセキュリティ含む)科目群」「ヘルスデータサイエンス科目群」の3つの専門領域から履修科目を選択する。

2) 履修指導及び研究指導の方法とプロセス

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

授業を開始する前の入学後初頭に「新入生ガイダンス」を実施し、情報データベースの利用方法、科目の履修方法、修了要件や論文提出要件、論文審査基準等について説明を行う。これらの条件を理解することは、学修及び研究を開始するにあたって重要であることから、繰り返し確認することができるようテキスト冊子の作成・配布はもちろんのこと、オンデマンド録画により繰り返し視聴できるよう配慮する予定である。また、科目の履修にあたっては、指導教員の指導と確認が必要であるが、学生の入学までの経緯と背景は多様であることが想定され、カリキュラムを包括的に理解して学修を計画できるとは限らない。そのため、履修登録前に指導教員が学生一人ひとりに履修指導を行う。指導教員は、履修計画の支援に留まらず、学生の将来のキャリアデザインを見据えた適切な科目履修について指導を担う。

指導教員は、所属研究室とともに入学後すぐの4月に決定する。本研究科においては、主指導教員1名と、副指導教員1名の原則2名を専攻内の専任教員から選出する。また、主指導教員が研究テーマの専門性などの観点から必要と判断した場合は、副指導教員をさらに1名選出することができる。二人目の副指導教員は、他研究科の教員から選出

することも可能とする。

(博士前期課程(M))

研究指導について、5月には研究テーマの決定と研究指導計画書の提出を求める。その後は、研究指導科目「健康データサイエンス特別研究1・2」を軸に研究指導及び論文作成指導を推進する。

研究科生は、指導教員の指導のもと、本格的に研究課題に基づき調査・研究を進めることになる。研究科生は、2年次4月に「修士論文執筆計画」を作成し、指導教員の指導のもと、修士論文執筆計画に即して、さらに詳細な研究課題の研究を引き続き進める。10月～12月(予定)に修士論文中間審査を行い、1月～3月(予定)に修士論文を提出する。【資料8】

(博士後期課程(D))

研究指導について、5月には研究テーマの決定と研究指導計画書の提出を求める。その後は、研究指導科目「健康データサイエンス特別研究1・2・3」を軸に研究指導及び論文作成指導を推進する。

研究科生は、3年次4月に「博士論文執筆計画」を作成し、指導教員の指導のもと本格的に博士論文の執筆を開始する。10月～12月(予定)にかけて、博士論文予備審査、博士論文本審査を行い、1月～3月に博士論文審査(最終)を行う。

なお、研究科生には、3年次の博士論文審査までに、学術論文を査読付きのジャーナルまたは国際会議に投稿し、受理(アクセプト)されることを目指す。

3) 修了要件

(博士前期課程(M))

必修科目11単位、基盤科目選択4科目から2科目4単位以上を選択、専門科目専門基礎科目6科目から2科目4単位以上を選択、選択科目より11単位、合計30単位を修得するとともに、修士論文について本研究科が行う審査及び試験に合格することを修了要件とする。

(博士後期課程(D))

必修科目12単位、基盤科目3科目より1科目2単位以上の選択、選択科目より6単位、合計20単位を修得するとともに、博士論文について本研究科が行う審査及び試験に合格することを修了要件とする。

4) 履修モデル

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

履修モデルを提示する【資料9】。

6. 基礎となる学部（又は修士課程）との関係

本研究科は、令和5年4月に開設した健康データサイエンス学部を基礎学部として、教育や研究の展開を構想している。そのため、基礎学部から博士前期課程、博士後期課程まで、「健康」をキーワードとした教育研究の基礎から応用までの内容には強いつながりがある。特に、学部教育（4年間）のみでは育成が難しいサイバーセキュリティの専門性を持った人材の育成には、サイバーセキュリティの基盤となる高度なコンピュータサイエンスの知識と技術が必要となるため、学部教育と博士前期課程(M)の6年間、続いて博士後期課程(D)の3年間において一貫性ある教育研究が必要となる。基礎学部と博士前期課程(M)、博士後期課程(D)、これら3つの組織の分野領域のつながりは【資料10】に提示する。

7. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合 (博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

社会人学生が勤務と学修の両立を図れるように、講義科目の一部では、zoomを用いて教室での対面授業と教室外の遠隔地の社会人学生を同時双方向で接続するハイフレックス方式によって受講できるように可能な限り配慮する。教材の配付や回収は、Webによる本学ラーニングマネジメントシステムである「J-pass」を通じて行えるようになっている。このような多様なメディアを高度に利用して、ハイフレックス方式での授業への出席を希望する社会人学生には、教室外においても教室と同様の環境で授業を受講することができるよう配慮する。なお、演習科目については、授業科目の特徴からWeb受講だけでなく、対面方式、すなわちスクーリングが教育効果上、特段の意味があると考えられることから、ハイフレックス方式での受講を可能としながら、授業回数の半数以上を対面方式で受講するように指導する。

8. 「大学院設置基準」第2条の2又は第14条による教育方法の実施

1) 修業年限

(博士前期課程(M))

標準修業年限は2年であり、修業年限は4年間とする。

(博士後期課程(D))

標準修業年限は3年であり、修業年限は6年間とする。

2) 履修指導及び研究指導の方法

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

本研究科生は、入学までの履歴が多様であり、カリキュラムを包括的に理解して学修を計画できるとは限らない。加えて、研究推進のための基礎知識や研究方法の技術確立のレベルも一定ではないと考えられる。そのため、指導教員が研究科生一人ひとりに対し、履修登録前の学修面談の中で履修指導を行う。指導教員は、履修支援に留まらず、学生の今後のキャリアデザインを見据えた適切な授業科目の履修についての指導と研究計画の策定のための助言・指導を担う。指導教員は、学生の履修状況をチェックし、在学期間中を通じて担当研究科生の修得単位数が僅少であったり、成績が低位であったりする場合には、適宜問題解決を図る。

3) 授業の実施方法

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

本研究科では、社会人学生を積極的に受入れていく予定である。社会人学生に対しては勤務と学修の両立の観点から、対面方式を基本としながら講義科目は、zoom を用いた同時双方向の Web 授業とのハイフレックス方式を併用し実施する。演習科目は、授業の教育効果上、対面方式に特段の意味があると考えられることから、ハイフレックス方式での受講を可能としながら、授業回数のうち半数以上は対面方式で受講するように指導する。加えて、外国人留学生には特に配慮をしており、英語及び中国語に堪能な教員もいるが、女性を含む複数の外国人教員が在職しており、留学生の多言語対応の履修指導及び研究サポートも可能である。

4) 教員の負担の程度

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

教員には、週 1 日の研究日を設けるとともに、担当授業コマ数は週 5 コマを上限とし教育研究の両立を確保するとともに、教育研究の両立を支援する。また、教育の質を担保するため、講義においては特定の曜日に負担が集中しないように時間割編成においても工夫している。

5) 図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の厚生に対する配慮、必要な職員の配置

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

キャンパスには、自習室、PC を配置した共同利用スペース、無線 LAN、閲覧雑誌を配架したラウンジスペースなど、研究科生の学修及び研究支援設備を設けているとともに、専任のスタッフを配置して、授業時間を通じて授業支援、研究サポート、学生対応について十分な配慮を行う。

6) 入学者選抜の概要

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

入学者選抜は、本研究科のアドミッションポリシーに即し、大学院の課程を履修するにふさわしい能力と素質のある者を公正かつ妥当な方法で選抜する。募集人員や入試方法等については、後述の「9. 入学者選抜の概要」に記載する。

7) 必要とされる分野であること

(博士後期課程(D))

厚生労働省が推進する職業訓練のデジタル分野の重点化や、文部科学省が推進する高等教育機関等におけるデジタル人材の育成確保の施策のとおり、数理・データサイエンス・AIを応用する力を持った人材の育成や、社会人等に対するリカレント教育・リスキリング教育の推進には、同時にその指導を担う教育研究者の養成が求められる。本研究科では、医学・医療の知識を有し、デジタル分野におけるAI技術やデータ分析などの技術を備えた「高度情報専門人材」の育成に加え、エビデンスをもって科学的に取り組める専門性の高い「教育者・研究者」を育成し広く社会に輩出することで社会への貢献を果たしていくこととする。

8) 大学院を専ら担当する専任教員を配置するなどの教員組織の整備状況 等

(博士後期課程(D))

博士号は最高学歴であり、高い専門知識と高度な研究能力を要求される。そのため、本研究科においては、本研究科の運営に携わることができる本研究科及び本研究科基礎学部に所属する専任教員を中心に教員組織を整えており、今後もこの編成方針を維持する計画である。

9. 入学者選抜の概要

本研究科のアドミッションポリシーは、次の通りである。

1) アドミッションポリシー

(博士前期課程(M))

- AP1 出身学部・専攻は問わないが、医学・医療、工学や理学などの自然科学に関する基礎知識と基礎的な研究能力を有する人
- AP2 健康データサイエンスの探究を通して、人々の健康に貢献することを求めている人
- AP3 国際的な視野で知識を獲得し、意欲を持って研究課題に取り組むことのできる人
- AP4 高い理想を実現するために新たな研究に挑戦する意欲を持っている人

(博士後期課程(D))

- AP1 出身研究科・専攻は問わないが、データサイエンスに関する専門的知識と研究を遂行できる学力を有している人
- AP2 自ら主体的に問題を発見し、課題を解決する能力を持っている人
- AP3 研究を進めるにあたり必要とされる外国語の能力を持っている人

2) 入学者選抜の概要

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

本研究科では、本研究科のアドミッションポリシーにしたがい、下表の4方式にわたる多様な入学選抜方法を工夫し、多面的・総合的に評価して入学選抜を行う。なお、博士前期課程(M)の募集人員に女子枠を設ける。秋入学については、研究科完成後すぐに教育研究成果を評価し、教育課程等各種環境の改善整備を進め、2027年度入試から実施する計画である。

(1) 入学選抜の方法及び募集人数

入試区分	入学定員 (博士前期課程(M)) 20人	入学定員 (博士後期課程(D)) 6人
① 一般選抜	7名 (内女子枠2名)	2人
② 社会人選抜	若干名	若干名
③ 外国人留学生選抜	5名 (内女子枠2名)	若干名
④ 学内推薦選抜	8名	2人

(2) 一般選抜

a. 実施時期

2025年度入試は11月中旬、2026年度以降入試7月下旬

b. 選抜方法

(1) 書類審査

- ・博士前期課程(M)：研究計画書（本学指導教員の承認済）、本学指導教員の推薦状、成績証明書
- ・博士後期課程(D)：研究計画書（本学指導教員の承認済）、本学指導教員の推薦状、成績証明書、修士論文又はそれに相当する学術論文、研究業績一覧表及びその概要

(2) 学力試験

- ・専門1科目（研究計画の専門に応じ、統計学とコンピュータ科学のどちらか1科目選択）
- ・英語

(3) 口述試験

(4) その他

学内推薦選抜の出願資格・要件の無い者について（GPA2.9以下）、当該選抜の出願は可能とする。

(3) 社会人選抜

出願時まで2年以上の実務経験を有する者に対し、社会人選抜を行う。

a. 実施時期

一般選抜と同じ日程で実施する

b. 選抜方法

(1) 書類審査

- ・博士前期課程(M)：推薦状（所属企業等）、研究計画書（本学指導教員の承認済）、本学指導教員の推薦状、成績証明書
- ・博士後期課程(D)：推薦状（所属企業等）、研究計画書（本学指導教員の承認済）、本学指導教員の推薦状、成績証明書、修士論文又はそれに相当する学術論文、研究業績一覧表及びその概要

(2) 学力試験

- ・専門1科目（研究計画の専門に応じ、統計学とコンピュータ科学のどちらか1科目選択）
- ※ 研究計画書の内容で十分な知識があると判断できる場合は試験を免除
- ・英語（博士前期課程(M)においては、TOEFL®、TOEIC®が一定点以上の場合には試験を免除：TOEFL iBT 61点以上、TOEIC L&R 650点以上）

(3) 口述試験

(4) その他

- ・受け入れ後に円滑な研究活動が行えるよう研究課題に関する実務上の十分な経験・知識を有しているかどうかに加え、職場の所属長の推薦を得ているかなどについて詳細に確認する。
- ・実務経験を有する者とは、IT企業、製薬及び医療機器メーカー、ヘルスケア企業、医療機関等における実務経験を想定している。

(4) 外国人留学生選抜

現在の基礎学部に対する外国人留学生の当領域に対する関心の高さから、外国

人留学生の入学希望者が多く見込まれることから、外国人留学生選抜を実施する。

a. 実施時期

一般選抜と同じ日程で実施する

b. 選抜方法

(1) 書類審査

- ・博士前期課程(M)：研究計画書（本学指導教員の承認済）、本学指導教員の推薦状、成績証明書、日本語能力試験成績証明書（N2以上が望ましい）
- ・博士後期課程(D)：研究計画書（本学指導教員の承認済）、本学指導教員の推薦状、成績証明書、修士論文又はそれに相当する学術論文、研究業績一覧表及びその概要、日本語能力試験成績証明書（N1以上が望ましい）

(2) 学力試験

- ・専門1科目（研究計画の専門に応じ、統計学とコンピュータ科学のどちらか1科目選択）
- ・英語（博士前期課程(M)においては、TOEFL®、TOEIC®が一定点以上の場合には試験を免除：TOEFL iBT 61点以上、TOEIC L&R 650点以上）

(3) 口述試験

(4) その他

当該選抜では日本語能力試験成績証明書を出願資格・要件の一つとして課し、本専攻の授業に十分対応できる日本語能力を有する者かを確認する。

(5) 学内推薦選抜

博士前期課程(M)は本学学部を卒業予定の者に対して、博士後期課程(D)は本学研究科前期博士課程を修了予定の者に対して、書類審査と口述試験によって選考する。入学選抜は、年2回実施する。

a. 実施時期

2025年度入試は11月と1月、2026年度以降入試7月と1月

b. 選抜方法

(1) 書類審査

- ・博士前期課程(M)：研究計画書（本学指導教員の承認済）、本学指導教員の推薦状、成績証明書
- ・博士後期課程(D)：研究計画書（本学指導教員の承認済）、本学指導教員の推薦状、成績証明書、修士論文又はそれに相当する学術論文、研究業績一覧表及びその概要

(2) 口述試験

(3) その他

当該選抜では出願資格・要件として、GPA3.0以上の成績を求めることとする。

本研究科のアドミッションポリシーで定める各項目がそれぞれの入学者選抜の方法において、どのように対応しているか、対応関係については【資料 11】に示す通りである。

3) 選抜体制

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

(1) 入学者選抜に係わる組織

本研究科の入学試験に関する方針及び選考方法等に関する審議は、本研究科教員で構成する入試委員会において行う。

入試委員会は、研究科長を委員長とし、教授職及び准教授職の中から研究科長が指名する教員をもって構成し、入学条件及び出願条件の設定、入試問題の選定、入学試験の実施及び入学者選考等を行う。開設年度入学試験については、設置認可後に速やかに初年度入試委員会を設置し、研究科長予定者を中心に、既設学部等に在籍し研究科への異動及び併任予定の教授及び開設年度就任予定教員のうちから教授職及び准教授職の教員を中心に行う。

(2) 入学試験の実施と入学者の決定

入学試験の実施は、入試委員会が行う。入試実務については、健康データサイエンス研究科事務室が研究科長の指示を受けて担当する。入学試験の成績判定は、入試委員会にて選考し、研究科会の議を経て学長が決定する。開設年度については初年度入試委員会にて選考し、その結果を学長に報告し、学長が決定する。

10. 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

1) 教員配置の考え方

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

統計学とデータハンドリング、コンピュータとプログラミング、サイバーセキュリティ、ヘルスデータサイエンスが本研究科教育研究の基本となるが、本研究科では基礎となる基盤科目から専門科目、研究指導科目まで、それぞれに実務経験のある常勤の専任教員が中心となって授業を担当する。教育課程全体に占める専任教員が担当する科目の比率は、博士前期課程(M)で87.9%（専任教員担当科目数（非常勤講師とのオムニバス科目を含む）：29科目、非常勤講師だけが担当する科目数：4科目）、博士後期課程

(D)で100.0%となっている。教員構成について、博士前期課程(M)の専任教員は18名で、教授が13名、准教授が4名、講師が1名である。博士後期課程(D)の専任教員は15名で、教授が11名、准教授が4名である。

博士前期課程(M)と博士後期課程(D)ともに、大半の専任教員が博士学位を保有している。これは、基礎学部(健康データサイエンス学部)設置と同時に研究科の設置構想を開始しており、研究科レベルの教育研究の質を確保するため、既に基礎学部設置時に研究力の高い教員を採用していたためである。各領域には、それぞれの分野領域の牽引実績がある教育研究者を軸とし教員を配している。また、外国人留学生には特に配慮をしており、英語及び中国語に堪能な教員もいるが、女性を含む複数の外国人教員が在職しており、留学生の多言語対応の研究サポートも可能である。

2) 教員の研究分野

(博士前期課程(M)) (博士前期課程(M))

教員の研究分野について、博士前期課程(M)には数理統計系教員5名、コンピュータサイエンス系教員5名(内サイバーセキュリティ系教員1名)、ヘルスデータサイエンス系教員7名、英語教授法の教員1名、以上計18名の専任教員を各領域のバランス良く配置している。博士後期課程(D)は、数理統計系教員5名、コンピュータサイエンス系教員5名(内サイバーセキュリティ系教員1名)、ヘルスデータサイエンス系教員5名、以上15名の専任教員を各領域のバランス良く配置している。

3) 教員の年齢構成と定年との関係

(博士前期課程(M)) (博士前期課程(M))

教員の年齢構成は、完成年度の博士前期課程(M)において60歳代以上6名、50歳代7名、40歳代5名となっている。教授は本学及び他大学等で教育研究・実務経験の豊富な人材を配置したことから60歳代が多く、年齢がやや高くなっているが、心身ともに健康であり教育及び研究に対する情熱を持ったスタッフを揃えており、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障はない。准教授及び講師については40～50歳代を中心として本学及び他大学での教育研究経験が豊富な教員を配置している。

[専任教員の職位別年齢構成：博士前期課程(M)] ※年齢は完成年度ベース

	40～49歳	50～59歳	60～65歳	66歳以上	合計
教授	1名	6名	0名	6名	13名
准教授	3名	1名	0名	—	4名
講師	1名	0名	0名	—	1名
合計	5名	7名	0名	6名	18名

[専任教員の職位別年齢構成：博士後期課程(D)] ※年齢は完成年度ベース

	40～49 歳	50～59 歳	60～65 歳	66 歳以上	合計
教 授	1 名	5 名	0 名	5 名	11 名
准教授	3 名	1 名	0 名	—	4 名
講 師	0 名	0 名	0 名	—	0 名
合 計	4 名	6 名	0 名	5 名	15 名

就任時に定年年齢（65 歳）を超える教員及び完成年度迄に定年を迎える教員については、完成年度末を以って退職の予定である。主として教授職にある教員である。定年を超える教員に関して、特任教授の任用にあたっては「学校法人順天堂就業規」及び「順天堂大学特任教員に関する規程」に即して、理事会の承認を得るものとしている。後任の教員については、年齢構成や専門領域の職位構成のバランスを配慮しつつ、学年進行に応じて教育研究上の優れた実績を重ねた准教授の教授昇任や学内外から教育研究業績の豊かな教員及び次世代を担う 50 歳以下の若手教員の採用を計画的に実施し、教育研究の質が維持・向上でき、活性化が図れるように進める。なお、データサイエンスの基本は統計学とも言え、本学は、統計数理研究所「統計エキスパート育成プログラム」にも参加し教員を派遣しており、その養成を経た教員の新規採用について、将来積極的に行っていきたい。【資料 12】

11. 研究の実施についての考え方、体制、取組

（博士前期課程(M)）（博士後期課程(D)）

1) 個人研究費、施設等

本研究科の専任教員には、毎年、物品費（資料費）及び旅費として個人研究費（30 万円）が配分され、日常的な研究の助成が行われている。また、全ての専任教員は基礎学部の教員を兼務する。そのため、教員研究室は基礎学部がある浦安・日の出キャンパスに置くが、本研究科の講義を行う本郷・お茶の水キャンパスにおいては医学研究科医科学専攻（修士課程）データサイエンス学位コースの共同研究室を利用する【資料 12】。浦安・日の出キャンパスと本郷・お茶の水キャンパスの移動所要時間は約 40 分ではあるが、研究科の講義日に学部の講義は開講しないよう配慮する。また、本学学術メディアセンター（大学図書館）の蔵書は図書のみでも和書洋書併せて約 30 万冊を超えている。所属するキャンパスの図書館で直接利用が可能のほか、他のキャンパスからの取り寄せも可能である。また、各種の統計、電子ジャーナル等の研究用のデータベースも広範に備えている。教員研究室からだけでなく、VPN を用いて学外からもデータベースへのアクセスが可能である。

2) 学内連携

研究データとしては、スポーツ健康学部や医学部でのデータへのアクセスが可能である。また、9つの学部、5つの研究科の研究データベースは共有化され、個人・グループでの利用が可能であることが本学の強みでもある。

3) 研究活動をサポートする技術職員やURAの配置状況について

本学URAは、研究実績があり、学位（博士）を有する者を任用し、5名のURAを大学本部（研究戦略推進センター・健康総合科学先端研究機構）に配置している。本学URAの役割は、研究支援により、研究者の研究時間の確保につながり、研究力が強化されることを想定している。またURAが責任をもって支援が行えるよう、「リサーチ・アドミニストレーター（高度学術専門職員）に関する規則」を整備する等、URAが責任をもって業務に当たれるような機関体制を整備している。

12. 施設、設備等の整備計画

（博士前期課程(M)）（博士後期課程(D)）

1) 校地の整備計画

本研究科専攻を設置する本郷・お茶の水キャンパス（以下「本キャンパス」という。）は、東京の中心部である東京都文京区に立地し、JR線御茶ノ水駅・御茶ノ水口、東京メトロ丸ノ内線御茶ノ水駅より徒歩7分であり、通学だけでなく、学修や研究で必要な関係機関などへの交通アクセスも利便性は高い。また、キャンパスには医学部附属病院や研究棟が併設しており、本学の強みである長年蓄積した大量の健康や医療領域のデータを研究データとして最大限に駆使した教育研究が展開しやすい。さらに、本研究科の教育研究で得た知的リソースは、社会人に向けたリスキリングを計画しており、地域や企業におけるIT人材の育成にも貢献しやすい環境と言える。【資料13-1・2】

2) 校舎等施設の整備計画

(1) 校舎の整備

本研究科の教育には、キャンパス内センチュリータワー3階の2教室と8階のマルチメディア教室を講義・演習に利用する。事務室を13階に配置し、修学支援に限らず生活支援においても配慮する。また、14階に健康管理室（医務室）を配置する。

【資料14】

(2) 設備の整備

本研究科では、研究科生に個人のデバイスの所有と教育研究への持ち込みを奨励するため、教育研究の推進において特に大型設備は要しない。コンピュータサイエンス領域の教育研究において、一部サイバーセキュリティに関する演習を行うため、センチュリータワー8階のマルチメディア教室内にサイバー攻撃模擬システムを設置し、安全なシステムを構築する技術を修得する。

(3) ネットワーク環境

キャンパス全館に高速無線 LAN 環境を整備し、クラウド化された教育情報基盤により、教育コンテンツの円滑な活用・学修ができるように計画している。

3) 学生の研究室

本研究科の新設にあたっては、研究科生が充実した学修と研究に専念するための研究スペースとして、センチュリータワー5階のラウンジ (341.8 m²) を学生研究室に整備する。また、自習室としては、学生研究室以外に、学術メディアセンター (図書館)、ラーニング・コモングの共用スペース (299.37 m²) を常時利用することができる。【資料 14】

4) 図書等の資料及び学術メディアセンターの整備計画

(1) 学術メディアセンターについて

本学の学術メディアセンターは、本郷・お茶の水キャンパスの学術メディアセンターが本館としての機能を持ち、既存4キャンパス (さくらキャンパス、浦安キャンパス、三島キャンパス、浦安・日の出キャンパス) にそれぞれ学術メディアセンターを配置している。各学術メディアセンターは図書館業務システムによるネットワークで情報を共有しており、学内外から資料予約や文献複写依頼等を受け付けている。学術メディアセンター内には個人のノートパソコンの持ち込みを可能とし、無線 LAN を利用してインターネット検索が可能な環境を整備している。

(2) 図書及び雑誌について

既設キャンパスの学術メディアセンターは、自然科学では医学・医療・スポーツ・看護・理学療法・診療放射線、人文・社会科学では国際・言語・一般教養を中心に、和書・洋書の学術情報を収集している。蔵書数は既存キャンパスの合計で、令和5年度(2023年度)末で301,912冊、うち105,075冊が外国書である。学術雑誌は自然科学を中心に人文・社会科学を含む全ての学問分野で、既設キャンパスの合計で冊子体5,381タイトルを所蔵している。蔵書は図書・雑誌ともに、毎年度に定期的な整備を行っている。本研究科においても既設キャンパスが所蔵する図書及び雑誌を利用でき、学内専用便や郵送により貸出を行っている。利用が終わった図書及び雑誌については、どこの既設キ

キャンパスからでも返却可能となっている。

(3) 学術情報の電子化への取り組み

学術情報は、本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンターを中心として、冊子体から電子へと資料媒体の切り替えを積極的に進めている。電子ジャーナルを 46,557 タイトル、電子書籍を 13,417 タイトル契約しており、リンクリゾルバによる文献情報のナビゲートを提供している。これらの多くは全キャンパス・全附属病院のみならず、自宅等の学外からも閲覧可能である。電子情報は学術メディアセンターのウェブサイトに集約しており、「電子ジャーナル・電子書籍リスト」と「資料検索」から検索して閲覧できる。

電子ジャーナルは、医学分野の主要なデータベースである「PubMed」と「医中誌 Web」等の検索結果に本学専用のリンクを設定して、雑誌文献へのアクセスの便宜を図っている。購読するジャーナルは定期的に研究室・教員に購読アンケートを取り、学術メディアセンター運営委員会において見直しを行っている。医学・薬学分野の国内誌として、「医書.jp オールアクセス」と「メディカルオンライン」等を契約している。

電子書籍は、シラバスに掲載された教科書や参考図書を中心に、語学学習・就職活動・教養等を契約している。

データベースは、本学の強みである医学・診療支援・スポーツ科学・看護学系の自然科学のデータベースをはじめとして、人文・社会科学等の幅広い分野を網羅する学術情報全文データベース（「ProQuest Central」、「Academic Search Complete」等）を契約している。引用索引データベースは、「Web of Science」と「Scopus」の両方を契約している。また辞典・事典、新聞・雑誌記事データベース等を契約しており、調査・研究活動を支援している。薬学関連では、「今日の診療プレミアム WEB」において、最新版の「治療薬マニュアル」を閲覧できる。

本学が所蔵・契約していない資料は、他大学図書館との相互協力（国立情報学研究所の NACSIS-ILL、日本医学図書館協会等）により、文献複写や現物貸借の相互協力を行っている。令和 3 年度（2021 年度）の既設キャンパス合計実績は、他大学からの複写依頼が 2,505 件、他大学への複写依頼が 2,359 件であり、本学から他大学への提供実績が上回っている。研究の高度化に伴い、国内で入手できない外国文献利用の要望に際しては、海外文献提供サービスの利用が可能である。

(4) 閲覧席について

本キャンパス学術メディアセンターには 200 席の閲覧席を整備する。

また、各階にラウンジを設置して、自主学習やグループ学習等の様々な学修スタイルにも対応できるようにしている。

13. 管理運営

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

本学は教育・研究に関して全学に共通する事項を審議する機関として、順天堂大学大学協議会を設置している。学長を議長とし、各大学院研究科研究科長、各学部学部長、その他を委員として運営し、全学的な教育・研究施策の企画及び教育研究活動の継続的な改善の推進と支援に取り組んでいる。【資料15】

1) 研究科委員会等の組織及び事務組織について

各研究科の運営について協議する機関として、各研究科に研究科委員会を設けている。研究科委員会の組織及び運営等必要な事項について順天堂大学大学院研究科規程に定める。

本研究科も順天堂大学大学院学則第3条規定に基づき研究科委員会を置く。【資料16】

本研究科の管理運営をサポートする事務は、健康データサイエンス研究科事務室が担当する。同事務室は当該研究科全般の管理運営の庶務、教務事務・授業管理及び教員の教育研究活動支援業務を行うとともに、学生の厚生補導（福利厚生、奨学金等）についても担当し、円滑な学生生活を支援する。

2) 本研究科の管理運営方法

(1) 研究科委員会

①研究科委員会は次の委員により構成される。

ア) 研究科長

イ) 教授（特任教授を含む）及び前任准教授

ウ) 研究科長があらかじめ学長に諮り研究科委員会の議を経た、本研究科を併任している他の教職員（教授、前任准教授又は相当の者）

②研究科委員会は、学長が次の各号に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

ア) 学生の入学及び卒業に関する事項

イ) 学位の授与に関する事項

ウ) 教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定める事項

- ・学則その他教育研究に関する重要な規程の制定、改廃に関する事項
- ・教育課程の編成及び履修方法に関する事項

- ・学生の表彰及び懲戒に関する事項
- ・教員の採用、昇任等に関する事項
- ・入学試験に関する事項
- ・既履修単位の認定に関する事項 等

③研究科委員会は、前項に掲げる事項のほか、研究科の教育研究に関する事項について協議し、学長の求めに応じて意見を述べることができる。

④研究科委員会は毎月1回（8月は除く）開催し、研究科委員会の議長は学部研究科長があたる。

⑤研究科委員会を円滑に運営するために研究科委員会の下に次の委員会を置く。

ア) 教務委員会（教務事項・学事に関する事項）

イ) カリキュラム委員会（カリキュラムに関する事項）

ウ) カリキュラム評価委員会（カリキュラムの評価検討に関する事項）

エ) FD委員会（授業内容と授業方法の改善を図り、教員の資質向上に関する事項）

オ) 広報委員会（学部広報、HP作成、学生の募集活動に関する事項）

カ) キャリア支援委員会（学生のキャリア就職活動支援に関する事項）

キ) 学生部委員会（学生の福利厚生及び学生生活全般の指導に関する事項）

ク) 入試委員会（入学試験に関する事項、入学試験の実施及び入学者選考に関する事項）

ケ) 自己点検・評価委員会（自己点検・評価に必要な教育研究目標の設定、教育研究活動の改善、その他に関する事項）

コ) IR実務委員会（学修時間・学修実態調査及び授業評価等の実施・検証に関する事項）

サ) 教員人事委員会（教員の募集、採用・昇任の資格審査及び研修に関する事項）

シ) ハラスメント防止委員会（ハラスメント防止及び措置に関する事項）

ス) 学術メディアセンター運営委員会（図書等の学術資料の整備、学術メディアセンターの運営に関する事項）

セ) 研究推進委員会（教員・研究者等の研究活動の推進及び紀要刊行に関する事項）

ソ) 研究等倫理委員会（倫理指針等による研究内容の科学的及び倫理的側面の審査に関する事項）

各委員会は、原則として月1回開催（8月は休会する）。ただし入試委員会、自己点検・評価委員会、ハラスメント防止委員会は必要に応じ開催する。

(2) 産学協働協議会

産業界等各方面の有識者の意見（ニーズ）を踏襲し、育成する人材像についてより明確化するとともに、その実現を可能とする実践的な教育研究方法を検討・開発する。外部委員については、既に学内で行われている産学共同講座の参画企業等を中心に、情報系大学教員やAI企業、国際的企業、地元自治体等から招聘・委嘱する。

(3) 教育研究改善研究会

産学連携により教育研究の質についてP D C Aのもと確認・評価・改善し、教育研究機能の強化に繋げる。外部委員については、既に学内で行われている産学共同講座の参画企業等を中心に、情報系大学教員やAI企業、国際的企業、地元自治体等から招聘・委嘱する。

14. 自己点検・評価

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

1) 実施方法、実施体制、結果の活用

本学では、「内部質保証に関する方針」、「内部質保証に関する規程」及び「自己点検・評価に関する規程」に基づき、教育研究等の状況について、毎年度、自己点検・評価を行っている。

自己点検・評価は、内部質保証の一連のプロセス（前年度の取組から課題を見出し、解決に向けての取組及びスケジュール案の企画・設計(P)、改善に向けた具体的な取組(D)、取組成果の検証(C)及び次年度に向けての取組の方向性を定める(A)のうち、取組成果の検証(C)に位置づけられる。本学では、「学長」の下に内部質保証の推進に責任を負う組織として「内部質保証推進委員会」を置き、同委員会に内包する形で全学的な自己点検・評価を行う「自己点検・評価運営委員会」を置いている。部門レベル(学部、研究科、医学部附属病院及び大学管理部門)で自己点検・評価を実施し、その結果は「自己点検・評価運営委員会」及び「内部質保証推進委員会」での審議を経て、「学長」に報告される。「学長」は、その報告を受け、改善を要する事項について当該部門に改善の指示を行う体制となっている。当該部門では、必要な場合は「内部質保証推進委員会」の支援を受け、改善計画に沿って改善を実施し、改善結果は「内部質保証推進委員会」を通じて、「学長」に報告されるという改善サイクルとなっている。また、自己点検・評価及び内部質保証について、客観性・妥当性・有効性を高めるために、学外有識者からなる「外部評価委員会」による評価を受ける。学長の下で全学的な教学マネジメントが有効に機能するように上述の3つの委員会がそれぞれの役割を果たすことにより、大学全体として適切な点検・評価が実施され、必要な改善活動のサイクルが回り、本学の教育研究等の改善・向上が図られるようになっている。

2) 評価項目

評価項目は、公益財団法人大学基準協会の大学基準に則して、①大学の理念・目的に関すること、②内部質保証に関すること、③教育研究組織に関すること、④教育課程・学習成果に関すること、⑤学生の受入れに関すること、⑥教員・教員組織に関すること、⑦学生支援に関すること、⑧教育研究環境に関すること、⑨社会連携・社会貢献に関すること、⑩大学運営・財務に関することとしている。

3) 結果の公表

自己点検・評価報告書は、学内ポータルサイトに掲載するとともに、本学ホームページにも公開し、社会的説明責任を果たしている。

15. 認証評価

学校教育法第 109 条に定める認証評価については、公益財団法人大学基準協会による大学評価を 7 年毎に受審している。直近では、2023 年 10 月に受審している。結果は、2024 年 3 月に公表する予定である。

16. 情報の公開

1) 公表の方針・考え方

本学では、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づいて、大学の運営や教育研究活動等に関する情報を、個人情報保護等に配慮した上で積極的に公開することにより、社会的説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い大学運営と教育研究活動の質的向上を図る。また、様々な媒体を活用し、タイムリーに正確且つ分かり易く公表することにより、研究成果等を社会に広く還元する。

URL : <https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/> 情報公開（基本情報）

2) 公表の方法

ウェブサイトを中心に、SNS、YouTube 等の動画コンテンツ、刊行物の発刊、講演会の開催など、媒体特性を活かした公表を行うとともに、近年は、プレスリリース等による報道機関を通じた広報活動を積極的に推進している。

URL : <https://www.juntendo.ac.jp/>（順天堂大学）

URL : <https://www.juntendo.ac.jp/corp/news/letter/>（大学広報）

ア) 大学の教育研究上の目的及び 3 ポリシー

本学は、学是「仁」（人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心、これ即ち「仁」と理念「不断前進」（現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢）に則

り、「三無主義」（出身校、国籍、性による差別無く優秀な人材を求め、活躍の機会を与える）の学風を掲げ、8学部 5 研究科 6 附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として教育・研究・医療そしてリベラルアーツを通じて国際レベルでの社会貢献と人材育成を進めています。

本学に学び、卒業時・修了時に、何を身に付けたか、何ができるようになったかという質保証の観点から、3つのポリシーでは、以下のことを明確にしています。全学の方針を大学全体の視点で策定し、学位プログラム（学部、研究科）単位で詳細を明示しています。

1) ディプロマポリシーで明確にしていること

卒業・修了に際し、当該課程における学位を授与する要件として、学生が身に付けているべき資質・能力の目標を示します。

<大学院課程>

大学院においては、課程毎に定める基準を満たし、次の資質・能力を身に付けるとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、その課程に応じ所定の学位を授与します。

[修士課程・博士前期課程(M)]

- ①幅広い学識と高度な専門知識・技能を備え、専攻分野の研究を遂行する能力や高度の専門性を求められる職業等に必要な能力
- ②物事の本質を見極める判断力、強い責任感と高い倫理観
- ③国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信できる能力や高度の専門性を求められる職業に活かす能力

[博士課程・博士後期課程(D)]

- ①豊かで深い学識と高度な専門知識・技能を備え、専攻分野において自立して研究活動を行う能力や高度の専門性を求められる職業に必要な卓越した能力
- ②物事の本質を見極める判断力、真理の探究に向かう真摯な姿勢、独創的な発想、強い責任感と高い倫理観
- ③国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し当該分野の研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力

URL : https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_jun.pdf

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

2) カリキュラムポリシーで明確にしていること

ディプロマポリシーに示した資質・能力を学生が効果的に身に付けられるよう

に、どのようにカリキュラムを編成・実施し、学修成果をどのように評価するかを示します。

<大学院課程>

大学院においては、高度な研究能力・実務能力を身に付けられるよう、課程毎に以下のとおり教育課程を編成・実施します。

[修士課程・博士前期課程(M)]

- ① 学際的な内容を含む多様な専門科目を提供するとともに、論文作成等に係る研究指導体制を整備し、研究遂行能力の向上と専攻分野の専門知識・技能の獲得を促します。
- ② 研究者や高度専門職業人に求められる強い責任感と高い倫理観を育む機会を提供します。
- ③ 研究計画書に基づいた指導を行った上、予め明示した評価基準に基づき、厳格な評価を行い、修士論文又は特定の課題に基づいて研究成果の審査及び試験を適切に実施します。それらの評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

URL : https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_jun.pdf

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

3) アドミッションポリシーで明確にしていること

カリキュラムを通して、本学の卒業生・修了生となり得る意欲・資質を有する学生を入学者として得るため、求める学生像、入学に際し求められる学力の水準、入学者選抜などの方針を示します。

大学院では、次のような意欲と資質を有した学生を国内外より求めています。そのために、各研究科各課程において求める学生像に基づき、多様な背景を持つ志願者に対応する入試制度を用意しています。研究計画を含む出願書類の内容、学力試験、面接試験などによって、入学段階で備えているべき資質や能力、専門性を公正かつ適切に評価します。

- ① 本学の学是「仁」及び理念「不断前進」を理解し、自らの持つ感性と倫理観を絶えず磨いていく意欲の高い人
- ② 研究者として、自ら課題を設定し、独創的な学術研究に意欲的に取り組み、学術の進展に貢献しようとする志のある人
- ③ 高度の専門性を発揮する職業人として、社会の発展に貢献しようとする志のある人

- ④ 学問に対する知的好奇心、専攻分野の基盤となる知識・技能、柔軟な思考力とを兼ね備え、新たなことに挑戦しようとする強い目的意識を持っている
URL : https://www.juntendo.ac.jp/assets/ad_policy_jun.pdf
アドミッションポリシー（入学者受入の方針）

イ) 教育研究上の基本組織に関すること

学部、学科、研究科の名称

本学の設置する学部・大学院の名称等

https://www.juntendo.ac.jp/assets/name_course.pdf

① 学部、学科、研究科の定員

入学者数・収容定員・在学者数

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/capacity.pdf>

② 教育研究上の基本組織概要

順天堂 組織機構図

学校法人順天堂全組織機構図

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/Juntendo%20chart%2010.01%20.pdf>

医学部医学科・大学院医学研究科組織機構図

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/5306971dc91ee8c41df3750944dc35ef.pdf>

ウ) 教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

① 教育研究実施組織

順天堂 組織機構図

求める教員像及び教員組織の編制方針

求める教員像及び教員組織の編制方針（順天堂大学）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/organ-policy_jun.pdf

求める教員像及び教員組織の編制方針（大学院）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/organ-policy_in.pdf

求める教員像及び教員組織の編制方針（学部）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/organ-policy_gaku.pdf

② 教員数

教職員数

https://www.juntendo.ac.jp/assets/num_fac-staff.pdf

教員年齢区分

https://www.juntendo.ac.jp/assets/teac_age_categ.pdf

③ 教員が有する学位及び業績

順天堂大学研究者情報データベース

<https://kenkyudb.juntendo.ac.jp/>

大学院

医学研究科

https://www.juntendo.ac.jp/assets/degr-achi_med.pdf

スポーツ健康科学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/staff/>

医療看護学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/staff/>

保健医療学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hs/staff/>

学部

医学部

https://www.juntendo.ac.jp/assets/degr-achi_med.pdf

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hss/staff/list-furigana.html>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/nurs/staff/>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hsn/staff/>

国際教養学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ila/staff/>

保健医療学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hs/staff/>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ms/staff/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hds/staff/>

エ) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の

状況に関すること

① 入学者に関する受入れ方針

アドミッションポリシー（入学者受入の方針）

アドミッションポリシー（入学者受入の方針）（順天堂大学）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/ad_policy_jun.pdf

アドミッションポリシー（入学者受入の方針）（大学院）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/ad_policy_in.pdf

アドミッションポリシー（入学者受入の方針）（学部）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/ad_policy_gaku.pdf

② 入学者の数・収容定員及び在学する学生の数

入学者数・収容定員・在学者数

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/capacity.pdf>

③ 卒業又は修了した者の数

卒業（修了）者数

https://www.juntendo.ac.jp/assets/graduate_acquirer.pdf

④ 進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況

進学者数・就職者数・就職率

https://www.juntendo.ac.jp/assets/emp_info.pdf

オ) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

① **カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）**

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）（順天堂大学）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_jun.pdf

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）（大学院）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_in.pdf

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）（学部）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_gaku.pdf

② **授業科目、年間授業計画（シラバス等）**

大学院

医学研究科 修士課程（医科学専攻）

<https://mr-syllabus.juntendo.ac.jp/>

医学研究科 博士課程（医学専攻）

<https://dr-syllabus.juntendo.ac.jp/>

スポーツ健康科学研究科 博士前期課程(M)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/master/curriculum/>

スポーツ健康科学研究科 博士後期課程(D)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/doctor/curriculum/>

医療看護学研究科 博士前期課程(M)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/pamphlet/pamphlet/index.html>

医療看護学研究科 博士後期課程(D)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/pamphlet/pamphlet/index.html>

保健医療学研究科 修士課程

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/70c7c1abad92168b5942e9530ff7a0d9.pdf>

学部

医学部

<https://med.juntendo.ac.jp/syllabus/2023/index.html>

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hss/education/curriculum/index.html>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/nurs/education/syllabus/index.html>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hsn/education/syllabus/index.html>

国際教養学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ila/education/curriculum/index.html>

保健医療学部（理学療法学科 / 診療放射線学科）

理学療法学科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hs/pt/curriculum/>

診療放射線学科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hs/rt/curriculum/>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ms/education/syllabus/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hds/education/syllabus/>

③ 単位の履修登録上限

単位の履修登録上限

https://www.juntendo.ac.jp/assets/tani_jogen.pdf

④ 実務経験のある教員等による授業科目

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/120753882dd76223b506cc575e30c0c7.pdf>

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

① ディプロマポリシー（学位授与の方針）

ディプロマポリシー（学位授与の方針）（順天堂大学）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_jun.pdf

ディプロマポリシー（学位授与の方針）（大学院）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_in.pdf

ディプロマポリシー（学位授与の方針）（学部）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/d-c_policy_gaku.pdf

② アセスメント・プラン（評価の方針）

アセスメント・プラン（評価の方針）（順天堂大学）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/assessment-plan_jun.pdf

アセスメント・プラン（評価の方針）（大学院）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/assessment-plan_in.pdf

アセスメント・プラン（評価の方針）（学部）

https://www.juntendo.ac.jp/assets/assessment-plan_gaku.pdf

③学修の成果に係る評価と卒業又は修了の認定に当たっての基準

大学院

医学研究科 修士課程（医科学専攻）

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/master/curriculum/>

医学研究科 博士課程（医学専攻）

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/doctor/curriculum/>

スポーツ健康科学研究科 博士前期課程(M)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/master/curriculum/>

スポーツ健康科学研究科 博士後期課程(D)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/doctor/curriculum/>

医療看護学研究科 博士前期課程(M)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/master/about/>
医療看護学研究科 博士後期課程(D)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/doctor/about/>
保健医療学研究科 修士課程

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/70c7c1abad92168b5942e9530ff7a0d9.pdf>
学部

医学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/med/education/curriculum/>
スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hss/education/curriculum/index.html>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/nurs/education/syllabus/index.html>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hsn/education/syllabus/>

国際教養学部

https://www.juntendo.ac.jp/assets/eva-cert_criteria_int-edu.pdf

保健医療学部

https://www.juntendo.ac.jp/assets/hoken-iryo_0000-3-1_tebiki.pdf

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ms/education/syllabus/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hds/education/syllabus/>

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

① 教育研究等環境の整備に関する方針

https://www.juntendo.ac.jp/assets/kankyo-seibi_R4.01.pdf

② 建物耐震性能（耐震化率）

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/tAIshinkaritsu.pdf>

③ 各キャンパスの教育研究施設配置図

本郷・お茶の水キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/about/establish/index.html>

さくらキャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hss/about/facility/index.html>

浦安キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/nurs/about/facility/index.html>

三島キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hsn/about/facility/>

浦安・日の出キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ms/about/facility/>

④ 主な交通手段

本郷・お茶の水キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/access/index.html>

さくらキャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hss/access/access/index.html>

浦安キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/access/#anc03>

三島キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/access/#anc04>

浦安・日の出キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/access/#anc05>

⑤ 学術メディアセンター情報

5キャンパス学術メディアセンター情報

https://www.juntendo.ac.jp/assets/MediaCenter_Info.pdf

本郷・お茶の水キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/about/org/library/hongou/>

さくらキャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/about/org/library/sakura/>

浦安キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/about/org/library/urayasu/index.html>

三島キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/about/org/library/mishimAIndex.html>

浦安・日の出キャンパス

<https://www.juntendo.ac.jp/about/org/library/hinode/index.html>

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

① 授業料等納付金

2023年度 授業料等納付金

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/gakunokin.pdf>

② 入学試験検定料（大学院 入学案内・募集要項）

医学研究科 （ 修士課程[医科学専攻] / 博士課程[医学専攻] ）

修士課程

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/med/master/boshuyoko/>

博士課程

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/med/doctoral/boshuyoko/>

スポーツ健康科学研究科 博士前期課程(M)・博士後期課程(D)

博士前期課程(M)

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/hss/master/yoko/>

博士後期課程(D)

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/hss/doctor/>

医療看護学研究科 （ 博士前期課程(M) / 博士後期課程(D) ）

博士前期課程(M)

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/nurs/exam/>

博士後期課程(D)

https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/nurs/exam_d/

保健医療学研究科 修士課程

<https://www.juntendo.ac.jp/news/03219.html>

③ 入学試験検定料（学部 入学案内・募集要項）

医学部

https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/med/exam_info/

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/hss/outline/>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/nurs/outline/>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/hsn/examinfo/>

国際教養学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/ila/outline/>

保健医療学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/hs/information/>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/ms/outline/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/nyushi/hds/outline/>

④ **入学金・学費等（大学院）**

医学研究科 修士課程（医科学専攻）

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/med/master/fees/>

医学研究科 博士課程（医学専攻）

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/med/doctoral/fees/>

スポーツ健康科学研究科 博士前期課程(M)

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/hss/master/yoko/index.html#anc10>

スポーツ健康科学研究科 博士後期課程(D)

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/hss/doctor/#anc10>

医療看護学研究科 博士前期課程(M)

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/nurs/exam/>

医療看護学研究科 博士後期課程(D)

https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/nurs/exam_d/

保健医療学研究科 修士課程

<https://www.juntendo.ac.jp/news/03219.html>

⑤ **入学金・学費等（学部）**

医学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/med/>

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hss/>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/nurs/>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hsn/>

国際教養学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/ila/>

保健医療学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hs/>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/ms/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hds/>

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

① 学生の支援に関する方針

学生の支援に関する方針

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/shien-houshin.pdf>

障がいのある学生の支援に関する基本方針

https://www.juntendo.ac.jp/assets/shien_hoshin_R5.pdf

② 学生の修学支援

大学院

医学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/about/scholarship/>

スポーツ健康科学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/exam/graduate/hss/master/yoko/index.html#anc12>

医療看護学研究科

https://www.juntendo.ac.jp/assets/stu-sup_med-nurs.pdf

保健医療学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/9413356575bbd178ad201bf7555458ff.pdf>

学部

医学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/med/life/scholarship/>

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hss/>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/nurs/index.html>

保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hsn/index.html>

国際教養学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/ilAIndex.html>

保健医療学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hs/index.html>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/ms/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/admission/scholarship/hds/>

③ 学生の進路選択支援

大学院

医学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/master/about/>
スポーツ健康科学研究科 博士前期課程(M)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/master/about/>
スポーツ健康科学研究科 博士後期課程(D)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/doctor/about/>
医療看護学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/master/about/>
保健医療学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/news/03219.html>

学部

医学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/med/qualification/career/>
スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hss/career/support/>

医療看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/nurs/education/career/>
保健看護学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hsn/qualification/support/>

国際教養学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ila/career/support/index.html>

保健医療学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hs/career/support/>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ms/qualification/support/>

健康データサイエンス学部

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hds/folder/careerdesign/>

④ 学生の心身の健康等に係る支援

大学院

医学研究科 (1) 健康管理・健康相談 / 2) 学生相談室)

1) <https://www.juntendo.ac.jp/life/support/med/consultation/>

2) https://www.juntendo.ac.jp/life/support/med/consultation_copy/

スポーツ健康科学研究科 (1) 健康管理・健康相談 / 2) 学生相談室)

1) <https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hss/consultation/>

2) https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hss/consultation_copy/

医療看護学研究科 (1) 健康管理・健康相談 / 2) 学生相談室)

1) <https://www.juntendo.ac.jp/life/support/nurs/consultation/>

2) https://www.juntendo.ac.jp/life/support/nurs/consultation_copy/index.html

保健医療学研究科 (1) 健康管理・健康相談 / 2) 学生相談室)

1) <https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hs/consultation/index.html>

2) https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hs/consultation_copy/index.html

学部

医学部 (1) 健康管理・健康相談 / 2) 学生相談室)

1) <https://www.juntendo.ac.jp/life/support/med/consultation/>

2) https://www.juntendo.ac.jp/life/support/med/consultation_copy/

スポーツ健康科学部 (1) 健康管理・健康相談 / 2) 学生相談室)

1) <https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hss/consultation/>

2) https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hss/consultation_copy/

医療看護学部 (1) 健康管理・健康相談 / 2) 学生相談室)

1) <https://www.juntendo.ac.jp/life/support/nurs/consultation/>

2) https://www.juntendo.ac.jp/life/support/nurs/consultation_copy/index.html

保健看護学部 (1) 健康管理・健康相談 / 2) 学生相談室)

1) <https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hsn/consultation/>

2) <https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hsn/consultation/>

国際教養学部 (1) 健康管理・健康相談 / 2) 学生相談室)

1) <https://www.juntendo.ac.jp/life/support/ila/consultation/index.html>

2) https://www.juntendo.ac.jp/life/support/ila/consultation_copy/

保健医療学部 (1) 健康管理・健康相談 / 2) 学生相談室)

1) <https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hs/consultation/index.html>

2) https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hs/consultation_copy/index.html

医療科学部 (1) 学生サポート)

1) <https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/ms/support/life/index.html>

健康データサイエンス学部 (1) 学生サポート)

1) <https://www.juntendo.ac.jp/academics/faculty/hds/support/life/>

コ その他 (教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等)

①学部・大学院の教育研究上の目的

https://www.juntendo.ac.jp/assets/purpose_edu-res.pdf

②学則 (大学・大学院)

順天堂大学 学則

https://www.juntendo.ac.jp/assets/school_rules.pdf

順天堂大学大学院 学則

https://www.juntendo.ac.jp/assets/school_rules_in.pdf

③設置認可関係

スポーツ健康科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/03c5a6907b46494f56d82a37c0682583.pdf>

保健医療学部

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/7fc674d383298bf6bcd84f2631c98e.pdf>

医療科学部

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/52ddec8d260a30075089b56e78b8469d.pdf>

④大学評価

(公財)大学基準協会による2020(令和2)年度追評価(大学評価)について

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/ninsyohyouka.pdf>

⑤内部質保証

内部質保証に関する方針

https://www.juntendo.ac.jp/assets/nAIbushitsu_houshin.pdf

内部質保証推進体制図

https://www.juntendo.ac.jp/assets/nAIbushitsu_tAIsei.pdf

順天堂大学内部質保証に関する規程

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/b37f276554d459fb70a72c6c34c5415e.pdf>

⑥自己点検・評価

順天堂大学自己点検・評価に関する規程

<https://www.juntendo.ac.jp/assets/jikotenken.pdf>

自己点検・評価報告書（2022年度）

<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/evaluation/>

大学院研究科学位論文に係る評価に当たっての基準

医学研究科 修士課程

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/master/curriculum/>

医学研究科 博士課程

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/med/doctor/curriculum/>

スポーツ健康科学研究科 博士前期課程(M)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/master/curriculum/>

スポーツ健康科学研究科 博士後期課程(D)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/doctor/curriculum/>

医療看護学研究科 博士前期課程(M)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/master/about/>

医療看護学研究科 博士後期課程(D)

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/doctor/about/>

保健医療学研究科

<https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hs/master/curriculum/>

17. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(博士前期課程(M)) (博士後期課程(D))

- (1) 本学では、教育・研究に関して全学に共通する事項を審議する機関として学長を議長とする順天堂大学大学協議会を設置している。大学協議会は全学的な教育・研究施策の企画及び教育・研究活動の継続的な改善の推進と支援に取り組んでおり、各部門（大学院研究科・学部）の特性に応じたFD支援として、教育課程の編成に係わる全学的な方針の審議や教員の教育内容・授業方法の改善についての検討を行っている。

平成 25 年度には全学 FD テーマとして中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(2012 年 8 月 28 日) についての理解を促すため、平成 25 年 9 月 12 日に本学学長(現 学長特別補佐)が本学の現状と今後の取組に関する講演を行ない、同年 11 月 22 日に納谷廣美大学基準協会特別顧問から講演を受けた。その後主な研修として平成 28 年 7 月 22 日には、大学設置基準等の改正(平成 29 年 4 月 1 日)により SD が義務されることから、大学職員としての業務を自己点検し、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営が図れるように、必要な知識及び技能を修得、その能力及び資質を向上させるため「高大接続改革について」濱口太久未文部科学省高等教育局主任大学改革官から講演を受け、平成 30 年 11 月 30 日には、沖大幹国際連合大学上級副学長から、「SDGs をどう大学経営に生かすのか」、令和元年 11 月 29 日には小林直人愛媛大学学長特別補佐から「大学職員としてアクティブラーナーになる」の講演を受け、令和 2 年度には、アフターコロナ・ウィズコロナ時代を思案し、金子浩明グロービス経営大学院教授から「①医療の高度化への対応、②医療・保健・健康・スポーツの総合的な価値提案、③これらを推進するための教育基盤強化」について講演を受け、令和 3、4 年度は、ダイバーシティー&インクルージョン推進を理解するため、向井千秋東京理科大学特任副学長から、「新しい「世界」を“まとめる、率いる、飛び立つ女性力”」を、橋爪 淳文部科学省 科学技術・学術政策 人材政策課 課長から「研究環境のダイバーシティー実現に向けて～科学技術・学術分野における女性の活躍促進～」について講演を受け、それぞれ大学教職員がこれからの大学改革へ向け、どのように業務にあたるべきかを検証するために、教員及び職員が出席した。

平成 25 年以降、以下の通り研修を開催し、教員及び職員が出席し、学長主導の FD 体制に基づき授業内容方法等の改善に向けての意識の共有化を図っている。

	年 月 日	演題及び演者
第 1 回	平成 25 年 9 月 12 日	文科省「大学改革実行プラン」、とくに大学教育の質的転換について 木南英紀(前学長・現学長特別補佐)
第 2 回	平成 25 年 11 月 22 日	中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」 納谷廣美氏(大学基準協会特別顧問(前会長)、明治大学学事顧問(前学長))
第 3 回	平成 27 年 3 月 27 日	大学のガバナンス改革の推進～学校教育法改正に伴う学則の変更等について～

		木南英紀（前学長・現学長特別補佐）
第4回	平成27年11月5日	大学教育の質の保証について 村田直樹氏（文部科学省大臣官房付・桜美林大学大学院特任教授）
第5回	平成28年7月22日	高大接続改革について 濱口太久未氏（文部科学省高等教育局主任大学改革官）
第6回	平成29年12月4日	大学力の強化とその評価について 山本進一氏（名古屋大学名誉教授・岡山大学名誉教授）
第7回	平成30年11月30日	SDGsをどう大学経営に生かすのか 沖大幹氏（国際連合大学上級副学長、国際連合事務次長補、東京大学総長特別参与、国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構教授）
第8回	令和元年11月29日	大学職員としてアクティブラーナーになる 小林直人氏（愛媛大学学長特別補佐、教育学生支援機構副機構長、教育企画室長、医学部・総合医学教育センター長、教授）
第9回	令和2年度 (6/24、7/8、7/31、8/21)	①医療の高度化への対応、②医療・保健・健康・スポーツの総合的な価値提案、③これらを推進するための教育基盤強化」について 金子浩明氏（グロービス経営大学院教授）
第10回	令和3年9月8日	新しい「世界」を“まとめる、率いる、飛び立つ女性力” 向井千秋氏（東京理科大学特任副学長）
第11回	令和4年11月5日	研究環境のダイバーシティー実現に向けて～科学技術・学術分野における女性の活躍促進～ 橋爪淳氏（文部科学省科学技術・学術政策人材政策課 課長）

上記の他、職員の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営が図れるよう、必要な知識を修得させるとともに、その能力及び資質を向上させるための研修（スタッフ・ディベロップメント(SD)）を人事部が中心となり、設置形態の異なる大学

と、共同 SD 研修を平成 26 年から継続実施している。（新型コロナ感染拡大により令和 2 年度は中止）

	年 月 日	研修テーマ
第 1 回	平成 26 年 12 月 12 日	大学における研究倫理をめぐる動向
第 2 回	平成 27 年 8 月 25 日	管理職（部課長）研修
第 3 回	平成 28 年 8 月 23 日	女性管理職共同研修
第 4 回	平成 29 年 8 月 31 日	係長・中堅職員研修（部下・後輩への指導力養成研修）
第 5 回	平成 30 年 8 月 29 日	事務職員フォローアップ研修（入職 3～5 年程度の事務職員）
第 6 回	令和元年 8 月 28 日	大学法人に関する会計・経営の基礎を学ぶ
第 7 回	令和 3 年 8 月 31 日	オーナーシップ研修
第 8 回	令和 4 年 8 月 25 日	新任係長研修

また、人事部では、法人全ての職員を対象とした幹部職員、その他役職者を対象とする SD 研修を実施し、各部門が実施する SD 研修のほか、外部団体が企画する目的別 SD 研修なども活用し、全法人及び部門単位での FD・SD 活動を実施している。

(2) 本学既設の各学部・各大学院研究科において、FD 委員会（FD 推進委員会）を設置し、教員の教育研究に係わる資質の向上を図り、教育内容及び授業方法等の改善に継続的に取り組んでいる。

① FD 委員会の編成

研究科委員会の中に FD 活動を推進する組織として FD 委員会を配置する。FD 委員会は原則として毎月 1 回開催し、FD 委員会委員が出席する。

②FD 研修会の開催

全ての専任教員を対象に FD 研修会を年 1～2 回開催し、大学の教育改革に詳しい学外専門家を招いて講演会を開催し、FD 活動の推進につながる知識情報の修得等を図る。

③FD ワークショップの開催

FD ワークショップを年 1～2 回開催し、教員や外部講師による教育方法の実践報告や授業方法の改善・工夫に関する新たな提言等を受け、グループワークによる協議を行う。協議内容について事後にアンケートへの回答を求め、FD 委員会に集約す

る。

④ シラバスの整備

学生の履修指導に効果が上がるように毎年度シラバスを作成し、効果的に活用する。教務委員会が中心となりシラバスの記載内容を点検する。授業担当教員は教務委員会の意見や学生による授業評価を参照にしながら毎年シラバス記載内容を吟味し、改善点を策定した上で作成する。シラバスには授業科目の概要、ディプロマポリシーとの関連、到達目標、講義内容、授業方法、予習・復習、成績評価の方法と基準、教科書及び参考図書等を記載する。

⑤ 学生による授業評価

授業内容の改善を図るために「学生による授業評価アンケート調査」を毎回の授業毎又は学期毎に実施し、集計結果をFD委員会に報告する。FD委員会は評価結果内容について精査を行い、課題・問題点を調査分析し、研究科委員会に報告するとともに、改善提案を行う。授業評価結果については授業担当教員にフィードバックし、改善を要する場合には速やかに学部長より当該教員に対し改善のための指導を行なう。将来的には、各教員が自分の担当する科目の成績評価と他の教員担当科目の評価を比較し、教員が自らの授業の客観評価を行うことが可能となるように授業評価アンケートの集計結果等をWebサイト上での公開することを検討する。

⑥ 成績評価

既設学部では、GPA (Grade Point Average) 制度が導入されており、本研究科においても導入する。GPA制度を有効に活用・機能するためには、厳格な成績評価及び各授業科目における成績評価の平準化が前提となることから、FD活動の一環として科目毎、教員毎の成績評価状況を定期的に示して、本研究科内において統一した基準に基づいて成績評価が行われるように取り組んでいく。

⑦ 教育研究活動の公表

教員の研究活動、研究会への参加、対外的に公表された研究成果、学会における活動状況、公共機関における社会的な活動状況等をWebサイト上に「研究者情報データベース」として公表する。

また研究組織毎にも諸活動の情報を集約し、ホームページで公表している。

(<https://www.juntendo.ac.jp/university/research/organization.html>)

本学では定期的に「順天堂醫事雑誌 (Juntendo Medical Journal)」を刊行している。教員の研究活動成果を発表するツールとして活用している。本学部においても定期的に紀要を刊行することを計画する。

(3) 教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るための大学職員の研修等の取組

本学の事業運営に当たってその基盤となる専任職員の育成及び能力開発については、人事部を中心に取り組んでいる。階層別研修においては新規採用職員研修、採用後半年～1年後のフォローアップ研修、主任・係長・部課長別の研修、新任管理者の評価者研修、課題別研修（女性職員活性化研修、SD 英語研修等）を継続的に開催し、職員の能力向上を図っている。

希望者全員が自発的にスキルアップを図れるように、eラーニングにて技術・技能のスキルアップ、資格取得のためのステップアップ等自己の目標に合わせて選択できる多様なコースを提供している。

グローバル化への対応として学内英語研修に加え、海外研修を実施している。平成30年1月にアメリカに6名教職員を派遣し、アメリカの病院経営と医療テクノロジーに関し最新情勢を体験した。また、平成31年9月、日本私立医科大学協会主催の海外研修に参加（概ね2年に1回開催、本学から2～5名参加）し、医師4名、事務職員3名を派遣し、アメリカの医療の現況を視察・調査した。